

世界のベストチョイスをお届けする独立系半導体商社

## 富士エレクトロニクス株式会社

### 平成20年2月期 中間決算説明資料

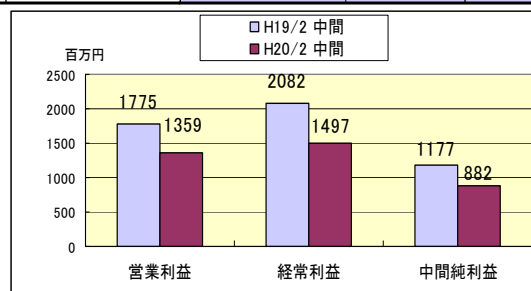
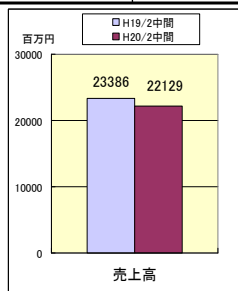
平成19年10月9日

〒113-8444 東京都文京区本郷3-2-12 御茶の水センタービル  
 TEL 03-3814-1411(大代表) FAX 03-3814-1414  
<http://www.fujiele.co.jp>

### 平成20年2月期 中間業績 (連結)

百万円

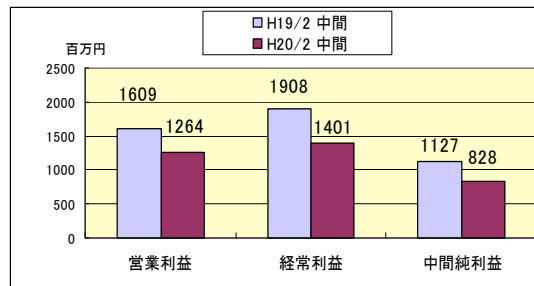
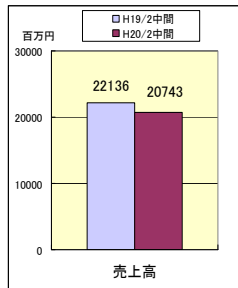
	平成19/2 中間 実績	平成20/2 中間 予想	同 実績	予想比	前期比
売上高	23,386	23,800	22,129	93.0	94.6
粗利率	16.3	16.3	15.7		
営業利益	1,775	1,702	1,359	79.8	76.6
経常利益	2,082	1,819	1,497	82.3	71.9
中間純利益	1,177	1,019	882	86.6	74.9



## 平成20年2月期 中間業績 (単体)

百万円

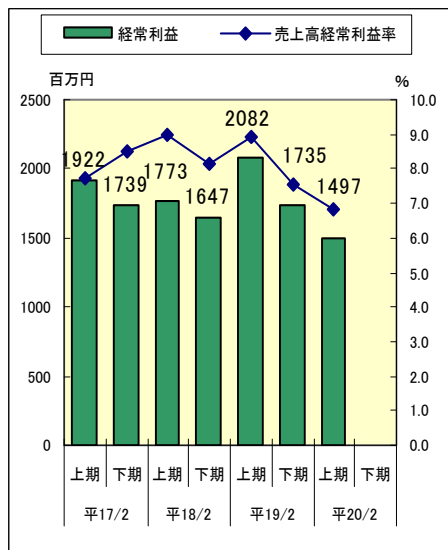
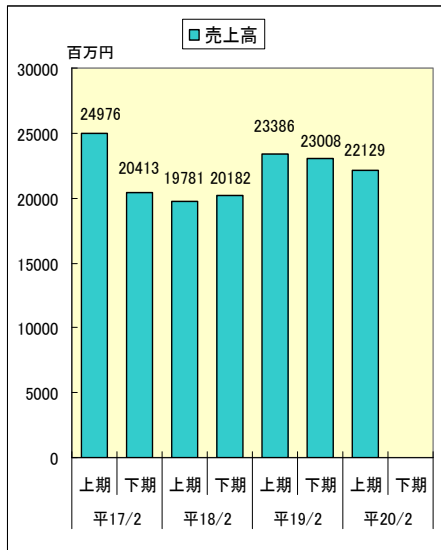
	平成19/2 中間 実績	平成20/2 中間 予想	同 実績	予想比	前期比
売上高	22,136	22,000	20,743	94.3	93.7
粗利率	14.7	15.0	14.4		
営業利益	1,609	1,531	1,264	82.6	78.6
経常利益	1,908	1,666	1,401	84.1	73.4
中間純利益	1,127	971	828	85.3	73.5



## 連結主要指標の状況

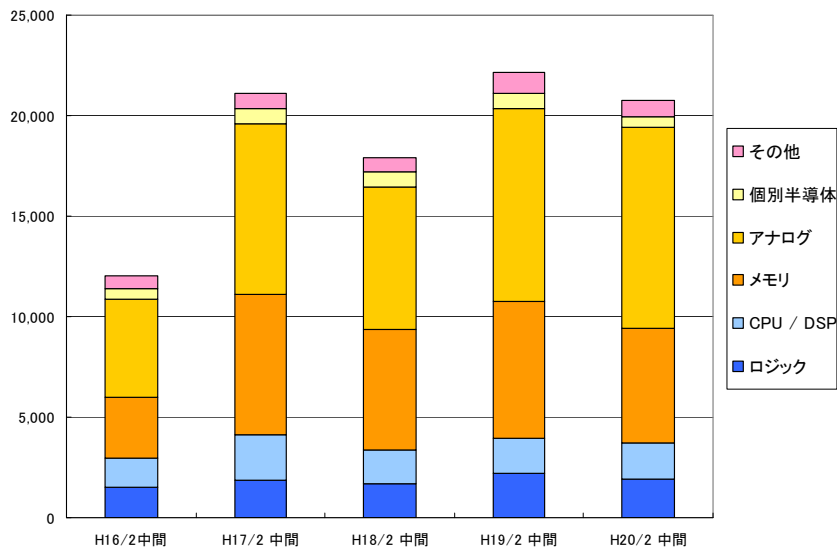
	平成19/2中間	平成20/2中間
総資産 (百万円)	27,100	26,589
純資産 (百万円)	19,172	20,203
中間純利益 (百万円)	1,177	882
1株当たり純資産額 (円)	1,179.00	1,241.65
1株当たり中間純利益 (円)	72.86	54.61
自己資本比率	70.3	75.5
自己資本利益率(ROE)	6.3	4.4
営業活動によるキャッシュフロー (千円)	△1,930,256	739,453
投資活動によるキャッシュフロー (千円)	△289,204	△517,521
財務活動によるキャッシュフロー (千円)	1,283,756	△1,175,056
現金及び現金同等物の中間期末残高 (千円)	3,541,993	4,249,502
従業員数 (名)	263	293

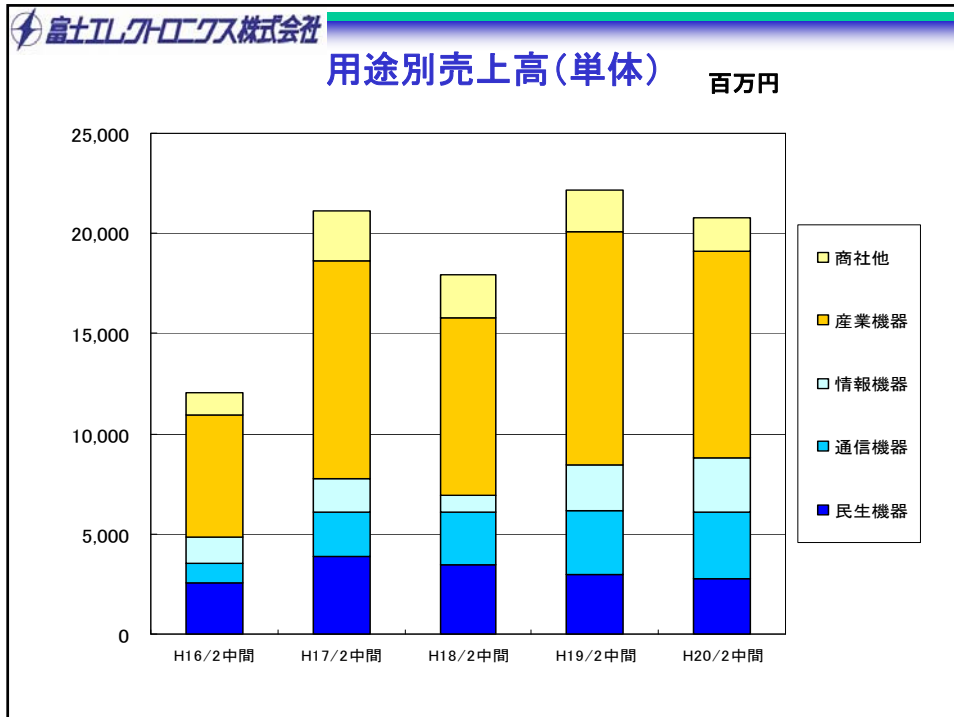
## 連結業績の推移



## 品目別売上高(単体)

百万円





富士エレクトロニクス株式会社

### 主な用途先と仕入先メーカー(単体)

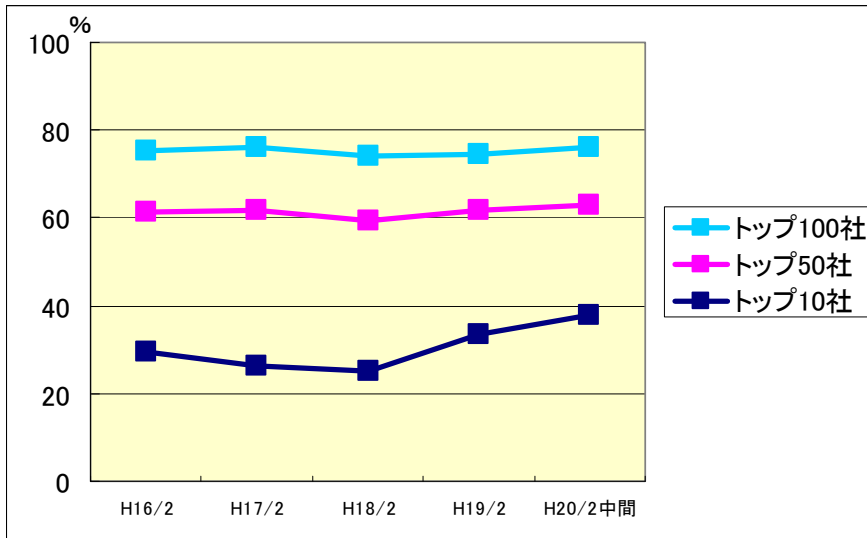
**主な用途先**

民生機器	デジタルカメラ、デジタルTV、DVDレコーダ、カーオーディオ、カーナビ等
通信機器	携帯電話、および基地局、CATV等
情報機器	PC及び周辺機器、サーバー等
産業機器	FA機器等製造装置、半導体製造装置、計測器、事務機器 医療機器、モーター制御、電源装置、宇宙・防衛関係、アミューズメント等

**主な仕入先**

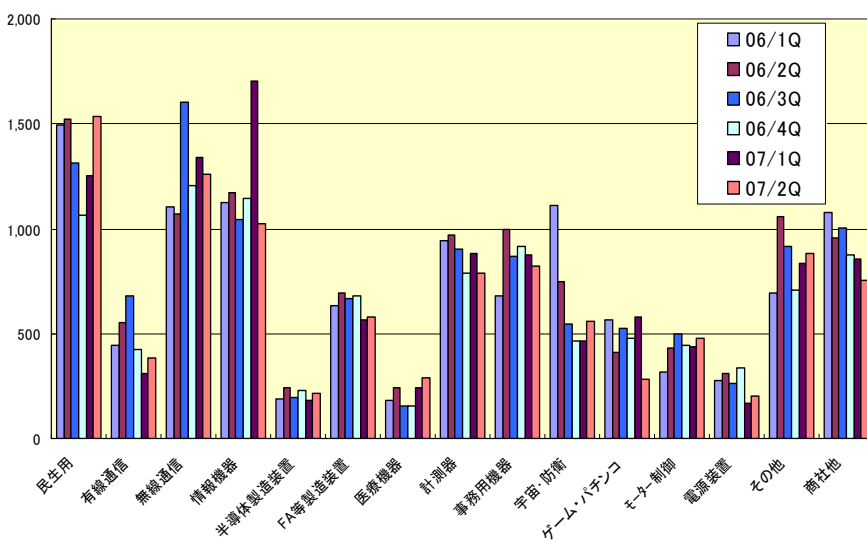
個別半導体	フリースケールセミコンダクタ、アバゴ・テクノロジー
アナログIC	アナログデバイス、テキサス・インスツルメンツ、ナショナルセミコンダクタ、サイベックス
メモリIC	マイクロン、サイプレス、SST
ロジックIC	テキサス・インスツルメンツ、川崎マイクロエレクトロニクス、サイプレス、オンセミコンダクタ、ステップテクニカ、ラティスセミコンダクタ
CPU/DSP	テキサス・インスツルメンツ、フリースケールセミコンダクタ、アナログデバイス、川崎マイクロエレクトロニクス

### 客先別売上比率(単体)

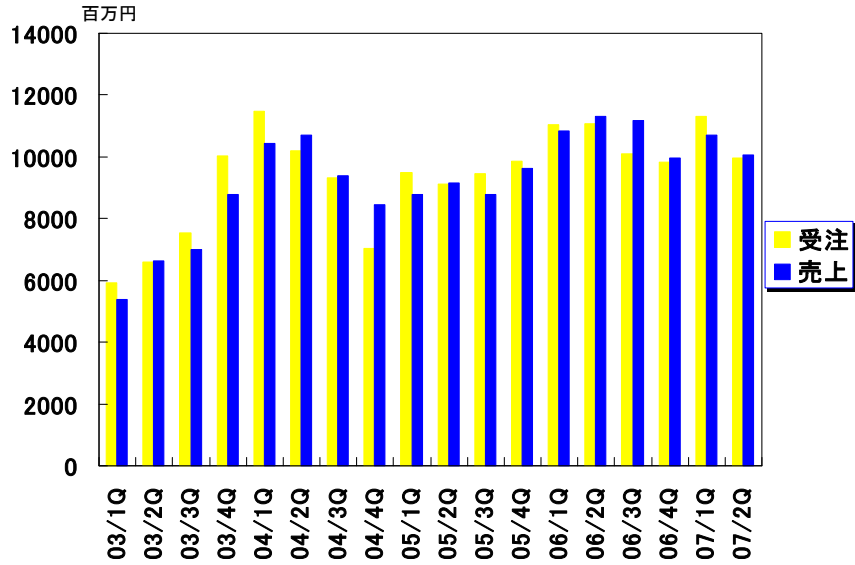


### 用途別売上高の四半期推移(単体)

単位: 百万円



### 受注・売上額の四半期推移(単体)



### 受注・売上の四半期推移(単体)

		百万円	前年比(%)	前四半期比(%)
受注	36期/3Q	9,450	101.4	103.7
	4Q	9,854	140.1	104.3
	37期/1Q	11,032	116.4	112.0
	2Q	11,080	121.6	100.4
	3Q	10,094	106.8	91.1
	4Q	9,830	99.8	97.4
	38期/1Q	11,310	102.5	115.1
	2Q	9,968	90.0	88.1
売上	36期/3Q	8,792	93.8	96.1
	4Q	9,610	113.9	109.3
	37期/1Q	10,837	123.5	112.8
	2Q	11,299	123.5	104.3
	3Q	11,187	127.2	99.0
	4Q	9,970	103.7	89.1
	38期/1Q	10,696	98.7	107.3
	2Q	10,046	88.9	93.9

## 平成20年2月期中間のまとめ(1)

1. 昨年同期からペースダウンした受注・売上は、1Qでやや戻したが上期としては調整から脱しきれず、連結、単体とも予算比・前年比でマイナスとなった。
2. 単体では、情報機器、無線通信、車載向けが好調だったが、民生機器、各種製造装置、計測器、アミューズメント向けなどが前年比マイナス。  
とくに、昨年大型プロジェクトが寄与した人工衛星関連は、反動で前年比大幅マイナスとなった。  
連結では、アジア現法概ね好調だったが、全体は前年比マイナスとなった。
3. 仕入先では、マイクロンは、DRAMが前年比マイナスとなるも、CMOSセンサがケータイ向けに約10億円の貢献(前年は4億)で、売上トップを維持。  
テキサスインスツルメンツもカーナビなどにDSPが好調で、前年比増加。  
昨年上期に商権移管のあったナショナルセミコンダクタは、前年比約30%増と着実に拡大。

## 平成20年2月期中間のまとめ(2)

4. 下期は、当社ではカーナビ・オーディオ・デジカメなど民生関連の増加、事務機・アミューズメントの復調、新規商材の効果などにより、受注・売上とも上期比・前年比とも増加を見込んでいる。
5. 通期予想は、半導体市場の回復も見込まれるため、当社の足元の受注状況などは厳しいものの、上記の下期増加要素を考慮し、今中間時点では期初予想のままとしております。

## 平成20年2月期 下期重点方針

- 売上リカバリープラン遂行
  - － 各グループ、TOP5プロジェクトの徹底フォロー
- 新ライン・新商材による新規開拓
  - － NS、アバゴ、ラティス、SST、サイペックス
- アジア拠点へのサポート強化による売上拡大
  - － 移管ビジネスの拡大促進
- 成長に向けた顧客開発の強化
  - － 大手電機グループ開拓促進
- MCRビジネス拡大への顧客リレーション強化
- 粗利率UPへPlan・Do・Check・Actionの徹底

## 平成20年2月期 上期実績・通期予想（連結）

単位：百万円

	上期実績		下期予想 (期初)	通期予想 (期初)		
	予想比	前年比		前年比	前年比	
売上高	22,129	93.0	94.6	27,300	51,100	110.1
粗利率	15.7			16.3	16.3	
営業利益	1,359	79.8	76.6	2,245	3,947	120.8
経常利益	1,497	82.3	71.9	2,399	4,219	110.5
純利益	882	86.6	74.9	1,343	2,363	114.7

平成20年2月期 上期実績・通期予想 (単体)

単位:百万円

	上期実績		下期予想 (期初)	通期予想 (期初)		
		予想比		前年比		前年比
売上高	20,743	94.3	93.7	25,000	47,000	108.6
粗利率	14.4			15.0	15.0	
営業利益	1,264	82.6	78.6	1,966	3,498	118.3
経常利益	1,401	84.1	73.4	2,133	3,800	107.2
純利益	828	85.3	73.5	1,243	2,215	106.6

WSTS(世界半導体市場統計)市場予測

伸び率:%

市場	予測	05年	06年	07年	08年	09年
日本 (円)	06/11	Δ2.0	11.3	6.6	10.7	3.5
	07/5			5.4	7.0	3.1
世界 (\$)	06/11	6.8	8.9	8.6	12.1	4.7
	07/5			2.3	10.2	5.2
野村證券	07/6		8.9	4.2	8.7	2.5

## 最近のトピックス(1)

### 米国「アバゴ・テクノロジー社」と代理店契約

- 本年5月契約。LED、フォトカプラなど光電子部品を主力とする半導体メーカー。
- 同社は、HP社の半導体部門としてスタートし、アジレント社を経て独立。
- 特徴は、業界トップレベルの高性能製品をラインアップすると同時に、確実な供給体制も整え、世界の大手ユーザーからの信頼も厚い。
- 同社は、日本の中堅産業機器メーカー市場の拡大を目指し、同分野を得意とする当社を代理店とした。
- 当社も、既存客先への納入ライン拡大および新規客先開拓のためのツールとして活用を図り、拡販体制を整備して取り組む。

## 最近のトピックス(2)

### アジア拠点(香港、上海、シンガポール)順調に拡大

1. とくに香港、シンガポール現法が、事務機器やデジタル家電の移管ビジネス拡大が順調。  
⇒ 売上順調に拡大、本格的に利益増大体質に転換
2. 今後、さらに国内各営業部との連携強化により、移管ビジネスの拡大により、売上拡大加速見込み。  
⇒ 3拠点計、前期約29億、今期中間約18億。通期45億見込。

## 最近のトピックス(3)

### 人材拡充

今後の業容拡大に向けた基盤強化のため、営業、技術系  
人員の採用拡大を、継続実施中。

- |        |                               |     |
|--------|-------------------------------|-----|
| ✓ 新卒採用 | 今年4月                          | 20名 |
|        | 来年4月内定                        | 21名 |
| ✓ 中途採用 | 今年 8名(8月まで実績)<br>さらに即戦力人材積極採用 |     |